

「いのち」の教育実践事例

☆川西町の実践

(大塚小学校)

連携

協働

ー チョウセンアカシジミの観察を通じた「いのち」「ひと」「地域」のつながりー

地域の支援を受けながら、チョウセンアカシジミの観察に長年取り組んでいます。いのちに感動しながら、さまざまな人と交流し地域のよさを見直す機会となっている事例です。

○ 3年 昆虫との出会い

- 理科の学習を通して、モンシロチョウの育ち方を学習する。そして、総合的な学習の時間で、1年間チョウセンアカシジミの観察を行う。比較することで、他のチョウとは異なる生態（幼虫が、他の生物と共生したり、敵から身を守る知恵を持っていたりすることなど）に驚きを感じ、生き物への愛着やおもしろさに気づく。それが、いのちに関心を持ち、大切に思う意識を育む機会となっている。

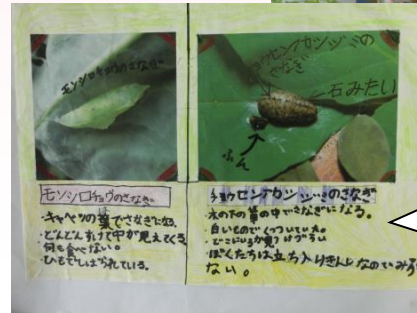
○ 地域とのつながり

- 「チョウセンアカシジミを守る会川西町」の支援があってこそ、20年以上続く活動になっている。相馬会長のお話を聞くことで、自分たちの地域にしかないチョウセンアカシジミへの思いに共感し、長年引き継いできている地域のよさにも気づいていた。
- 自分たちの地域にいる「本物」との出会いが、子ども達の心を動かし、自分達も引き継いでいきたいという思いにつながっている。

○ 人とのつながり

- 観察を続けることで、子ども達はチョウセンアカシジミの生態のおもしろさや不思議さ、そのチョウを守り続ける地域のよさを他の人にも伝えたい思いが募る。そこで、東京の小学校と交流を行った。関わりの中で、チョウセンアカシジミが貴重であることを再確認し、そんなチョウが生息する地域への思いをいっそう強くすることにつながった。
- また、同様の研究をしている近郊の高校生との交流を行った。活動に取り組む高校生の姿は、将来のあこがれの存在となった。
- 地区内の道路建設からチョウセンアカシジミを守ろうとする自然保護の活動にも参加することで、いのちを守るために、大勢の助けがあることに気づくことができた。

幼虫が、アリと助け合っているところがおもしろいな。



モンシロチョウと比較しながらまとめました。

相馬さんは、何でも知っていてびっくりしました。



高校生からの楽しいクイズ

チョウを助けるために協力できてよかった。来年、元気に育ってくれるといいな。

